

私は雨が嫌いだ。昼間なのに暗くて、シトシトジメジメするし、頭も痛くなるし、学校の行き帰りなんかは傘をさしても服はぬれるし、靴はビチャビチャになるし、ずっと晴れていたらいいのと思ってしまう。母にその話をすると、意外な答えが返ってきた。母が高校生時の話しをしてくれた。母が高校一年生の夏に体験した話で、春からほとんど雨が降らなかったそうだ。ダムの水はひあがり、夏なのに断水が初まってしまった。部活をおえて帰ってきてても水の使える時間が決まっていたので、夜までお風呂に入ることができなかったそうだ。食器をそのつど洗うこともできず、紙皿や紙コップを使い、なるべく水を使わない生活をしいられたようだ。私はその話を聞いて全身にとりはだがつた。そこで今、私たちが水を使う場面を考えてみると、お風呂やトイレ、食事など、たくさんの中で水を使っている、私たちが生きていく上で水は切っても切りはなせないものだと思つた。そんな時、たまたまニュース番組で取り上げられていた話題が、「冬でも気を付けないといけない、睡眠中に起こる脱水症状について」だった。脱水症状になつてしまう原因は、暖房器具による乾燥や、寝汗や呼吸による水分、電解質の喪失によるものなのだ。人間にはどれだけの水分が必要なのか調べてみると、成人が一日に体から排出する水分の量は約二、五Lにもなり、一日に摂取しなければいけない水分の量は、体重1kgあたりで約三十五mlと言われている、体重五十kgの人だと約二Lもの水分を補給しなければいけないのだと分かった。本当に水は大切だと改めて思った。ただ、その水がときに私たちが死においやるものになる。雨が降ることはもちろん大切なのだが、だからといって雨がたくさん降ればいいというわけではない。近年増えた、集中豪雨やゲリラ豪雨による河川の氾濫、それによる土砂くずれ。地震による津波など、一瞬にして目の前にある家など全てを飲みこんでいく。ニュースなどで、その場にいた方々の話によるとあつという間だったとみんな言つてい

た。私は以前、インターネットで見た情報を思い出した。それは津波を体験した方によると、たった十cmでも何かにつかまっていなくて立っていることが難しく、三、四十cmにもなると、一瞬で足元をすくわれていつの間にか流されておき、何がおきているのか分からなかったと述べていた。十cm違うだけで、威力はケタ違いだということを知つた。

このような災害はいつでも起こるか分からない。一度家族で災害の備えとして半日の間、水道と電気を使わない生活してみた。家にある全ての懐中電灯を使い明かりを準備し、家族でリビングに布団をしいて過ごした。この時一番必要となつたのはやはり水だった。のどを潤すのはもちろん、非常食を食べる時にも、お風呂に入る時や排せつ物を流すためにも必要だった。家族四人で、浴そういっぱいの水でなんとかお風呂に入ることができた。排せつ物を流す時には、お風呂の余つた浴そうの水をバケツに入れてトイレへ運んで流した。たつたの半日だけでこれだけの水が必要なんだと知る機会となつた。水は私たちが生きていく上で必要不可欠なのだ。

私は今まで、雨が嫌いはずっと晴れていればいいのと思つていただけで、今回この作文を書くにあたって、母の体験談などを聞き、雨が降ることが嫌じゃなくなつた。ただし、水はときに人々を死においやるものであり、当たり前蛇口から水が出ると思わないように、災害時の備えや災害が起きたときにはどう動くべきかなど、考えて動けるようにしたいと思つた。

を死においやるものになる。雨が降ることはもちろん大切なのだが、だからといって雨がたくさん降ればいいというわけではない。近年増えた、集中豪雨やゲリラ豪雨による河川の氾濫、それによる土砂くずれ。地震による津波など、一瞬にして目の前にある家など全てを飲みこんでいく。ニュースなどで、その場にいた方々の話によるとあつという間だったとみんな言つてい